

## 京都市クアラルンプール情報拠点レポート(2019年12月・2020年1月分)

### 1 統計

○訪日旅行者数(マレーシア)

・2019年12月 78,300人 (2018年12月 67,627人) (伸率 15.8%)

・2020年1月 44,800人 (2019年1月 31,399人) (伸率 42.7%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内ホテル対象宿泊延べ人数(マレーシア)

・2019年12月 5,601人 (2018年12月 4,849人) (伸率 15.5%)

対象施設数:58ホテル

・2020年1月 2,554人 (2019年1月 1,725人) (伸率 48.1%)

対象施設数:58ホテル

※出典「京都市観光協会データ月報」

### 2 市場動向

#### ■国内情勢、経済情勢

##### 2020年の経済成長「4.8%」期待

アズミン経済相は2020年のGDPについて、堅調なマクロ経済のファンダメンタルズを背景に、4.8%の高い水準が期待されると述べた。マレーシアの高度に多様化された経済と輸出構造、堅調な労働市場、低水準で安定したインフレ、強固かつ資本化された金融セクター、国際収支の健全な経常収支黒字が継続して経済を牽引すると言明。

「マレーシア政府は引き続き経済成長を優先しており、国際通貨基金(IMF)の4.4%予想や世界銀行の4.5%予想よりも高く予想している」とした。

また、航空宇宙、医療機器、電気・電子、機械、化学品などが成長の高い分野だと指摘した。

##### 61%が「国家が悪い方向に向かっている」=世論調査

ムルデカ・センターが行った最新の世論調査によると、61%が「国家が悪い方向に向かっている」と回答。「良い方向に向かっている」との回答(26%)を大きく上回った。同調査は2019年11月最終週に実施し、有権者738人から回答を得た。

マハティール首相に対する支持率では、華人で20%、インド系でそれぞれ14%に低下したが、マレー系の支持率は約1年前の42%から58%に上昇した。

国家が間違った方向に向かっていると考えている人に要因を聞いたところ、「経済問

題」が 26%と最も高かった。

有権者が最も関心のある事柄は、「インフレ」(53.1%)、「就業機会」(22.2%)で、現政権が重視している「汚職」(20.8%)がそれに続く形となった。

#### マハティール首相「変革は進行中だが達成まで時間がかかる」

マハティール首相は自身のブログへの投稿で、「経済変革のため政府はあらゆる措置を講じているが、ローマは一日にして成らずで、マレーシアが農業国から工業国に転換するのに時間がかかったように、今回の変革も時間がかかる」と、待つ必要を国民に訴えた。財政状況が厳しい事に触れ「国民に現金をばらまく事はできない。現政権は雇用を創出する。国民は喜んでそうした仕事に就く事が求められる」と述べた。また、中央銀行や政府機関、国有企業が保有する資産を合計すると、RM1 兆 5,000 億 (約 40.2 兆円)になる事を指摘し、「国内外の投資家はマレーシアの財政、経済政策を信用している」事を強調した。

### ■旅行業界・他都市の情報

#### マレーシアの航空旅客数が 1 億人を突破、前年比 6.1%増

マレーシア・エアポーツ (MAHB)によると、2019 年の国内空港における航空旅客数は前年比 6.1%増の 1 億 516.7 万人を記録した。

国際線は 5,326.5 万人で前年比 3.0%増、国内線は 5,190.2 万人で同 9.5%増となった。

マレーシア観光年である 2020 年の航空旅客数の見通しについても増加すると予測されており、特に中国人およびインド人観光客に対しビザの発行が免除されるキャンペーンが、旅客数増加に貢献すると見られている。

また、1 月 1 日にクアラルンプール国際空港の LCC 専用ターミナル(KLIA2)の入国審査場の拡張工事が完了し、収容人数が 500 人から 1,000 人に増加した事で、入国時の混雑緩和も期待されている。

#### マレーシア政府観光局、マレーシア観光年に合わせガイド付き町歩きツアーなどを発表

マレーシア政府観光局 (MTPB)はマレーシア観光年 (VM2020)に合わせて、「クアラルンプール・ヘリテージ・フード・トレイル」と一定期間に交通機関が乗り放題となるチケット「マイシティー・パス」を提供すると発表した。

「クアラルンプール・ヘリテージ・フード・トレイル」は地元ガイドとともに徒歩で下町の知識を深めるというもので、セントラルマーケットをはじめ、ヒンドゥー教寺院のスリ・カンダスワミーやカンポンバルなどを巡りながら、マレーシアの食文化を感じるというもの。「マイシティー・パス」は 1 日有効 RM10(約 270 円)と 3 日間有効 RM25 (約 675 円)の 2 種類が販売される。

#### マリンドエア KL-新千歳線を再開

クアラルンプールを拠点とする LCC マリンドエアは 2020 年 1 月 25 日から、KL-新千

歳間路線の再開した。ルートは休止前と同じく、往復とも台北経由となる。所要時間は台北での駐機時間を含んで合計 10 時間ほど。スケジュールは週 3 便(火・水・土)を予定している。

#### **エアアジアグループ 業務を多角化へ**

エアアジアグループのトニー・フェルナンデス最高経営責任者は、「今後は航空業だけでなく、グローバルな旅行とライフスタイルを牽引する企業に変わっていく事に注力する」と述べ、向こう 5 年で航空業以外の売上げを 60%にまで引き上げたい考えを示した。現在は 20%に留まっているという。同社は 3 日に、KL 市内の商業施設ミッドバレー・メガモール内に同社の機内食などを提供する「サンタン・レストラン」をオープンした。また 6 日には、東南アジアなどを拠点とする歌手を世界に売り込むため、ユニバーサル・ミュージック・マレーシア社と合弁企業レッドレコード社を設立した事を発表した。

#### **約 4 割がオリンピックに「非常に興味」**

日本好きの外国人を対象としたコミュニティサイト「FUN JAPAN！」を運営するファン・ジャパン・コミュニケーションズの調査によると、マレーシア人回答者の 39%がオリンピックに「非常に興味がある」、34%が「まあまあ興味がある」と答え、73%が関心を持っている事が分かった。

観戦方法については、61%のマレーシア人が「マレーシアでテレビやインターネットで観戦」と答え、21%が「日本に行ってパブリックビューイングなどでライブ観戦」、5%が「大会を会場で観戦する」と回答。

興味のある競技のトップはバドミントン (66%)で、次いで水泳 (55%)、体操 (49%)、サッカー (35%)、陸上 (32%)の順となった。

#### **マレーシア人の訪問先トップは関東地方、訪日回数は「1 回」という回答が最多**

ファン・ジャパン・コミュニケーションズの調査で、訪日経験のあるマレーシア人の訪問先トップは関東地方で、回答率は 76%だった。2 位以降は近畿(64%)、北海道(32%)、九州(15%)、中国(10%)、東北(9%)、沖縄(7%)、四国(3%)となった。訪日回数では「1 回」という回答が最も多かった。